



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ ここまでやっています ニーズに寄り添う多彩な子育て支援

当市は、子育て中の家庭に寄り添い、きめ細やかな支援策で子育てを支える自治体の、トップランナーであると自負しています。先日、育児サポーター派遣事業を利用したお母さんのアンケートを読む機会があり、がんばっているお母さんたちの姿に大いに感動すると同時に、子育て世代のニーズに寄り添う支援をさらに充実させていかねばと考え、今月号のテーマとしました。育児サポーター派遣事業とは、生後180日以内の赤ちゃんがいる家庭に1回2時間、計30時間まで（双子なら計60時間まで）、無料でベテラン保育士を派遣する事業です。利用するには事前の登録が必要ですが、出産前に登録が済んでいれば、出産後は電話で予約できます。



私たちが育児サポーターです

アンケートの自由記入欄は、育児で忙しいお母さんがよくここまで書いてくださったと驚くほど、細かな文字でびっしりとつづられていました。「実家や義父母にほとんど頼れない中、サポーターさんに救われた」「予防接種にも一緒に来てくれて、不安が和らいだ」「産後で体がつらいとき、サポーターのおかげで通院したり休んだりできた」「初めての育児で全てが不安だった。生まれてすぐに来てくれて、^{すこ}しく助かった」「どんなことも肯定的に聞いてくれ、励ましてもらった」「上の子(2歳)の遊び相手をしてもらい、家事をこなすことができた」など、母親のリアルな心情が吐露されていました。島田で子育てするお母さんを一人も孤立させない「寄り添う支援」の大切さを、改めて感じています。

当市には、特色ある子育て支援事業が他にも多数あります。30歳代後半～40歳代で出産・子育てをしているお母さんの交流の場「アラフォーマミーズの会」や転入者を対象とした「ウェルカム島田」、多胎児のお母さんを対象とした「ふたごちゃん、あつまれ～」なども開催しています。また、「初めて0歳児の子をもつ親の講座(ベビープログラム)」「フレッシュパパ・ママ講座」「いきいき子育て勉強会」など“^{おやりのく}親力を育てる”支援にも力を注いでいます。就労を望む母親には、市役所1階に「ハローワーク島田 お仕事相談室(ママハロ)」を設置しています。子宝を望む夫婦には、不妊メンタルケアサポーターが精神的なサポートや情報提供を行っています。もちろん不妊治療のための助成事業(人工授精・体外受精・顕微授精・男性不妊治療費用の一部助成)も行っています。メンタル面までのサポートは、島田市のまさに「寄り添う支援」の特徴です。30歳代と10歳未満の人口が、この5年間ずっと転入超過となっているのは、このような取り組みの成果であると考えています。

さらに今年度からは「島田市版 ネウボラ」を始めました。すべての妊婦・母子・子育て家庭を対象とした切れ目のない支援により、虐待などのリスクの早期発見・早期支援で効果を上げている、フィンランドのネウボラを参考にしています。各家庭に担当保健師をつけ、より気軽に相談しやすい関係を築き、安心して出産・子育てができる支援体制を提供していきます。母子手帳交付の際、手帳に担当保健師の名前と連絡先を記入し、妊娠期から就学時まで、ずっと同じ保健師があらゆる悩みや不安に寄り添うことで、子どもの健やかな成長につなげていきたいと考えています。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

川根文化センターチャリム21で、4月14日に「^{カワネラブズファクトリー}KAWANE LOVE'S FACTORY (略称 KLF)」が「かわねこどもまつり」を開催しました。川根にゆかりのある商店や団体の出店、動物ふれあいコーナー、巨大ダンボール迷路、積み木コーナーなどを設け、多くの子どもたちが遊びに来てくれました。KLFメンバーの多くは、川根に住む20～40歳代の子育て世代。自分たちが子ども時代を過ごした川根の楽しさを、今の子どもたちにも伝え残したいと

いう思いで、6年前から活動しています。また、5月19日(日)まで「大井川横断鯉のぼり」を設置しています。鯉のぼりは私たちの親世代が始めたもので、2014年に復活させました。ぜひ、川根に遊びに来てください。

(KLF 会長 ^{こだままさひと}児玉雅人さん)

